

コリント人への手紙第二8章9節 「貧しくなられたイエス」

1A 主イエス・キリストの恵み

1B 信仰による救い

2B 血による贖い

2A 貧しくなられた主

1B 富んでおられた主

1C 天地の主

2C 万物の相続者

2B 私たちのための貧しさ

1C 貧しい生涯

2C 卑しい姿

3B 恵みのゆえの選択

1C 栄光から離れた方

2C 永遠のいのちの救い

3A 富む者

1B 天にある、キリストにある富

2B 必要を満たす方

3B 地上の富の感わし

4B エペソ人への手紙の富

本文

コリント人への手紙第二8章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、7章まで来ましたが、今日は8章を午後礼拝で一節ずつ、見ていきたいと思います。今朝は、8章9節に注目します。「あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです。」

私たちは8章と9章で、エルサレムとユダヤにいる貧しい教会に対して、異邦人主体の教会が献金を集めていくことについて見ていきます。パウロたちが今いる、マケドニアでは、自分自身が極度の貧しさにもかかわらず、非常に喜んで献げ、そしてコリントにおいても、一時中断していた献金集めを、今、初めてほしいとお願いしているところです。これは、とても現実的な話であり、今、ウクライナで苦しんでいる方々のために、福音と共に救援物資を運んでいるカルバリーチャペルの人々に、私たちも貢献しているのと似ています。私たちは、献げることによって、聖徒たちとの交わりという恵みにあずかることができる、ということです。これは午後に詳しくお話します。

1A 主イエス・キリストの恵み

私たちキリスト者には、与えるという恵み、喜びがあります。マケドニアの人たちが、なぜそれほど喜びをもって献金したのか？それは、私たちの信じているイエスご自身が、献げる方であったからです。私たちは、この方が献げたものによって、豊かにされています。この恵みを知っているから、献げる喜びがあります。

1B 信仰による救い

初めに、「あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。」とあります。恵みとは、一方的な好意です。主イエス・キリストが、一方的に私たちに好意を寄せました。その恵みとは、救われた恵みです。「エペ 2:8 この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。」私たちが、罪の中において、神に怒りを受けなければいけません。自分は、死んで、死後にさばきを受けるに値するものです。それを償うことは、一切できません。しかし、神がキリストを私たちに遣わし、この方の上に私たちの罪を置かれ、この方の義を私たちに置いてくださいました。恵みによって救われるのです。

この良き知らせを、私たちは何度となく聞いているので、時に色あせてしまうかもしれません。しかし、どれだけ貴いことかを思い出さないといけません。たった今、イスラエルでは連続テロが起っています。イスラム教によるジハードという背景があります。イスラム教においては、善行を積むことによって天国に行けます。地獄と天国に分れていて、最後の審判で、どちらに行くかを神が決めます。何か、黙示録の最後の審判と話が似ていますね？そうです、とても似ています。けれども、善行が悪行にまさっていれば、天国に行けるのです。そして、ラマダンという断食の月に、善行をすると、いつもの時よりも 10 倍から 700 倍の良きことと数えられるそうです。そして、数ある善行の中で、ジハードが最善の行為だとされています。ジハードを実行して死ねば、そのまま天国に入ることができますね。善い行いをして、悪い行いをしてしまう前に死ぬのですから。しかも、天国は階層に分れていて、ジハードをすると 100 ランク上に上がるそうです。¹

このような話を聞くと、イザヤ書 64 章 6 節を思い出すんですね。「私たちはみな、汚れた者のようになり、その義はみな、不潔な衣のようです。私たちはみな、木の葉のように枯れ、その咎は風のように私たちを吹き上げます。」私たちが、これが最高の良い行いだ、義を行っていると思っていることであっても、神の前では不潔な衣のようであるということです。私たち人間が、天に入ろうとして何とかして善い行いを積んでも、全く神には汚らわしいものとしか見られない、というほど、私たち人間は墮落しているということです。「善を行う人はいない。一人もない。(ロマ 3:10)」

2B 血による贖い

ですから、これまで犯した罪の一切を、キリストの流された血潮によって清めていただいたという

¹ <https://note.com/iijamaakari/n/n6d9d5968c31a>

恵みがどれほど貴いことかを覚えるのです。「エペ 1:7 このキリストにあつて、私たちはその血による贖い、背きの罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。」そして、この恵みの豊かさを、世々限りなく示して下さいと約束されています(エペソ 1:7)。パウロは、ここで、あなたがたはこの「**恵みを知っています**」と言っています。いかがでしょうか？この恵みは知っているでしょうか？

2A 貧しくなられた主

そして、どのようにしてその恵みを知るようにさせてくださったのか？「**すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。**」ということです。恵みというのは、見返りを求めず、惜しまないで与えてくれることによって成り立ちます。イエス様は、富んでおられたのに貧しくなられたことで、私たちにご自分の富を与え、私たちを豊かにしてくださいました。ここに恵みがあります。

与えるということに、紐が付かないことはとても大事です。私たちの生きている世界では、自分が何かをすることによって、相手に良くしてもらおうという思いがとても強くあります。それで、恵みが恵みとして受け入れられないのです。恵みを知っていますと自分が言えるか？この体験がとても大切です。私は、教会を通してその恵みを少しずつ知っていきました。こんな自分が教会に入ってよいのか？汚れているのに、と思っていました、受け入れられました。そして、アメリカに行った時に、その学校は学費が年に合計 400 ドル、つまり 5 万円以下という破格値です。すべての教師が、ボランティアで教えてくださっているからです。そして、今に至るまで、全くお返しを期待されない支援をいただいています。

一方的に与えるのが恵みであり、その恵みを受けるからこそ、人は心の底から変わります。この恵みを知らなければ、経験しなければ、自分が良いことをしているつもりでも、自分に見返りを求める自己中心的なものになります。逆にいうと、それは神の無尽蔵な富から与えられた恵みがあるからこそ、一方的に与えることができるのです。イエス様は、無尽蔵の富から、ご自身を献げられることによって、私たちを富ませてくださいました。

1B 富んでおられた主

1C 天地の主

主は、どれほど富んでおられるでしょうか？私たちが先ほど交読した、詩篇 50 篇には、お返しすることのできない神の富を教えていました。「50:7-12 「聞けわが民よ。わたしは語ろう。イスラエルよわたしはあなたを戒めよう。わたしは神あなたの神である。8 あなたのいけにえのことであなたを責めるのではない。あなたの全焼のささげ物はいつもわたしの前にある。9 わたしはあなたの家から雄牛を囲いから雄やぎを取ろうとしているのではない。10 森のすべての獣はわたしのもの。千の丘の家畜らも。11 わたしは山の鳥も残らず知っている。野に群がるものたちもわたしの

もとにいる。12 たとえ飢えてもわたしはあなたに言わない。世界とそれに満ちるものはわたしのものだ。」そして、主は「感謝のいけにえを神に献げよ」と言われています(14節)。感謝を献げて、誓いを立てる、つまり主に応答しなさいということです。何か足りないものがあるかのように、主は献げることが命じておられるのでは全くないのです。すべてのものは主の前にあるのですから。

2C 万物の相続者

そして、ヘブル書には、「神は御子を万物の相続者と定め、御子によって世界を造られました。」とあります(1:2)。イエス・キリストには、万物という富があるのです。この方が世界を造られたのですから、すべてが主イエスのものなのです。

2B 私たちのための貧しさ

けれども、「あなたがたのために貧しくなられました。」と、パウロは言っています。その貧しくなれたことを、ピリピ書ではこのように説明しています。「ピリ 2:6-8 キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、7 ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、8 自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。」人として生きられ、十字架における卑しさまで味わいました。

1C 貧しい生涯

主が、経済的にも貧しい方であられたのは、福音書を見れば分かります。まず、お生まれになった時に、家畜の飼料に置かれました。泊まる宿がなかったからです。そして、ヨセフとマリアが、エルサレムで赤子イエス様を献げる時に、鳩を献げています(ルカ 2:24)。牛や羊を献げるのが普通ですが、経済的にできない時に鳩を献げるのです(レビ 5:11)。そして主は、「ルカ 9:58 狐には穴があり、空の鳥には巣があるが、人の子には枕するところもありません。」と言われました。それから、ペテロの家に神殿税を徴収しに人が来た時に、イエス様はペテロに、釣りをして、その魚が銀貨一枚を持っている、と言われました。つまり、神殿税を納める金銭的余裕がありませんでした。エルサレムに入城される時も、人の持っている、ろばに乗られましたし、死なれた葬られる時も、ヨセフが自分の墓を提供しました。自分の家には墓という墓がなかったと考えられます。

2C 卑しい姿

その上、卑しめられたのです。イザヤは、「50:6 打つ者に背中を任せ、ひげを抜く者に頬を任せ、侮辱されても、唾をかけられても、顔を隠さなかった。」と預言しました。「53:3 彼は蔑まれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で、病を知っていた。人が顔を背けるほど蔑まれ、私たちも彼を尊ばなかった。」とも預言しています。イエス様の十字架への道は、ただ肉体の苦痛を味わうというだけのもではなく、辱められ、痛めつけられ、尊厳が奪われるという仕打ちでした。人々の前で裸にされ、十字架は衆人環視の中で行われます。海綿にぶどう酒を付けた棒を、イエス様にローマ兵が付き出しましたが、それを口にされませんでした。その海綿を棒につけたものを、私はトル

コのエペソ遺跡に訪問して、ローマの公衆便所の遺跡を見ていた時に知りました。用を足した後のお尻ふきに使っていたのです！

3B 恵みのゆえの選択

1C 栄光から離れた方

イエス様がなぜ、このような辱めを受けられたのでしょうか？初めに父とおられた時の栄光から離れられたのでしょうか？それは、神に敵対する私たち、罪を犯している私たちを受け入れるためです。イエス様が十字架に付けられている時に、多くの者たちがこの方をあざけりましたが、けれども、その中でも憐れみを信じて、応答する者たちもいました。十字架に共に付けられていた犯罪人が、その一人です。「ルカ 23:42 イエス様。あなたが御国に入られるときには、私を思い出してください。」このように、応答する人々が出てくることを願われていたからです。御霊と真理によって、神を礼拝するようになることを願われていたからです。

2C 永遠のいのちの救い

「ヨハ 3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」私たちが滅びることなく、永遠のいのちを持つために、ご自身を貧しくされ、卑しめらえるに身を任せられました。

主は、天地のすべてをご自分のものとしておられるのですから、この世に現れる時に、その栄光と力をもって現れて、全くおかしくないのです。主は、再び来られる時にそのように来られます。けれども、初めに来られる時にそのような卑しめと苦しみを受けられたのです。富んでおられるのに、貧しくなられたのです。それは、私たちに恵みを与えるためです。罪の中にいる私たちを贖うため、救うためです。

3A 富む者

そして、「**キリストの貧しさによって富む者となるためです。**」と言っています。

1B 天にある、キリストにある富

私たちが富む者になるというのは、どういうことでしょうか？これは、経済的に富むようになるということではありません。信じればお金持ちになれます、というものではありません。先ほど話したように、マケドニアの人たちは、極度に貧しいのにそれでも、力以上に献げたというところにある豊かさです。キリストにある神の富によって生きる場所の豊かさです。

パウロは、「エペ 1:3 神はキリストにあつて、天上にあるすべての霊的祝福をもって私たちに祝福してくださいました。」と言っています。第一に、天にある祝福です。地から来る祝福ではないんですね。ペテロは、第一の手紙で、「朽ちることも、汚されることも、消えて行くこともない資産を受け

継ぐようにしていただきました。これらは、あなたがたのために天に蓄えられています。(1:4)」と
っています。イエス様は、「自分のために、天に宝を蓄えなさい。」と言われました(マタ 6:20)。今、
地上で与えられている富も、天から来ているものでなければ、全く空しいものです。

そして、これは、物質的な祝福ではなく、「霊的祝福」と言っています。目に見えないところの祝福
です。御霊による祝福です。ですから、困難な中にあっても、それでもキリストにある喜びがある。
平安がある。そういったところの祝福です。

2B 必要を満たす方

主は、そういった天からの祝福、また霊的な祝福によって、私たちの必要を満たして下さいます。
「ピリ 4:19 また、私の神は、キリスト・イエスの栄光のうちにあるご自分の豊かさにしたがって、あ
なたがたの必要をすべて満たして下さいます。」先ほど言及しましたが、イエス様と弟子たちは、
神殿税が払えないほど、お金がありませんでした。けれども、イエス様は、ペテロに、本当ならば
納税する必要はない、なぜなら、神の国の王子たちなのだから、と言われていました。あまりにも余
裕なのです。御国を信じているところの豊かさがあり、主が必要に応じて、すべての必要を満たし
て下さいます。

そういった姿勢を教えておられるのが、マタイ 6 章の、思い煩ってはいけないというイエス様の教
えですね。「マタ 6:26-30 空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもし
ません。それでも、あなたがたの天の父は養っていただきます。あなたがたはその鳥よりも、ず
っと価値があるではありませんか。27 あなたがたのうちだれが、心配したからといって、少しでも
自分のいのちを延ばすことができるでしょうか。28 なぜ着る物のことで心配するのですか。野の
花がどうして育つのか、よく考えなさい。働きもせず、紡ぎもしません。29 しかし、わたしはあなた
がたに言います。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも装っていませんでした。30
今日あっても明日は炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこのように装ってくださるのなら、あなた
がたには、もっと良くして下さらないでしょうか。信仰の薄い人たちよ。」私たちは、時々、立ち止ま
る必要がありますよね。そういえば、主は必要を満たしておられるではないか。備えはあるではな
いか？それなのに、自分ではどうにもならないことで、思い煩っていないか？という思い直しです。

3B 地上の富の惑わし

地上での富は惑わされます。「I テモ 6:10 金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。
ある人たちは金銭を追い求めたために、信仰から迷い出て、多くの苦痛で自分を刺し貫きました。」
そして、ヤコブはこう言いました。「5:1-3 金持ちたちよ、よく聞きなさい。迫り来る自分たちの不幸
を思って、泣き叫びなさい。2 あなたがたの富は腐り、あなたがたの衣は虫に食われ、3 あなた
がたの金銀はさびています。そのさびがあなたがたを責める証言となり、あなたがたの肉を火の
ように食い尽くします。あなたがたは、終わりの日に財を蓄えたのです。」たとえ多くの富があつて

も、それが天からのものでなければ、たちまち腐っていく、食い尽くされてしまうものであります。

4B エペソ人への手紙の富

エペソ人への手紙を、いつか学びます。ガラテヤ書を学び、その次にエペソ書です。その町は、貿易でとてつもなく富んでいたところでした。そこでパウロが教えたのは、キリストにある、天上にある霊的祝福です。恵みの豊かさ、計り知れない霊的な富について教えています。これらは、すべて献げてくださった方がおられるからです。富んでおられるのに貧しくなられた、主イエス・キリストがおられます。どうか、この方を受け入れるために、自分が貧しい者であることを知りましょう。自分で何かできるのだということを、あきらめましょう。キリストが、自分の無力に来てくださり、自分でできなかったことを、すべてしてくださったことを知りましょう。自分が、救われようとして頑張っていることは、すべて行われたという恵みがあり、それを受け取るからこそ、自分が変わり、自分から解放されて、恵みを分かち合う人、真に与える人になることができます。